



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **13**
2018.4.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコ活動研究大会/ESDの現場から：長沼りんごホールの活動紹介/お知らせ

**9月29-30日 ユネスコ協会中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会
in 諏訪が開催されます**



「Better World」～より良い社会の実現をめざして～をテーマに2018年度中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪が9月29日(土)・30日(日)にRAKO華乃井ホテル(上諏訪温泉)で開催されます。

基調講演は、コンソーシアムに加盟しているグリーンヒルズ小中学校校長であり鳥類研究者の山岸哲氏による「絶滅鳥類の復元：コウノトリ」、また地元、永明小学校の事例発表などが予定されています。

- 対象：ユネスコ協会会員、ユネスコスクール、小中高等学校関係者、教育委員会、地方公共団体、社会教育団体関係者、民間ユネスコ運動に関心を持つ一般市民、NGO、NPO など（一般参加者無料）
- 主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、中部東ブロック・ユネスコ連絡協議会、長野県ユネスコ連絡協議会、諏訪ユネスコ協会
- 問合せ：諏訪ユネスコ協会会長 矢崎靖雄、TEL/FAX 0266-72-2650、E-mail:yazaki3@po31.lcv.ne.jp

ESDの現場から

長沼りんごホール(市立長沼公民館)の活動紹介

公民館は「住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること」を目的としており、より良い社会をめざす点でESDの目標とも大きく重なる。今回、長野市の長沼りんごホール(市立長沼公民館)が信州ESDコンソーシアムに参加いただけただので、そこでの活動を紹介します。

「人が輝く、地域がきらめく長沼「地宝地活」運動：町は劇場、館は舞台、民は主役、職員は湧かせ役」をスローガンに多彩な活動を展開しています。特にESDとしては「②長沼の名産は子どもたち」プロジェクトとして学校支援ボランティア「りんごっこ支援の会」を創設し、長沼小学校への通学支援、俳句活動支援、栽培体験学習支援、エプロンおばさんの会による郷土料理、和太鼓クラブなど様々な学校の要請による支援を積極的に推進しています。学校へのこうした支援活動は多忙な教員と意欲ある地域ボランティアの双方にとっておおいに望まれるところですがそうした活動に伴う保険などの責任体制が整わないため、コミュニティスクールが推奨されながらなかなか進んでいないのが現状です。そこで長沼では公民館活動の一環として学校支援を行うことで地域の人々が参加しやすい環境を生みだしています。

今後、ユネスコスクールが増加し、地域の方々の支援を必要とする場面が増えてくる中で長沼公民館の活動は大いに参考になるのではないのでしょうか。(渡辺隆一)

事務局より

- ・信州ESDコンソーシアムは「地域ESD活動推進拠点」に申請しました。これは持続可能な社会の実現に向け、ESDに関わる多様なマルチステークホルダーが、地域における取組を核としつつ、様々なレベルで分野横断的に協働・連携して、ESDを推進することを目的とした「ESD推進ネットワーク」に参加することです。
- ・信州大学教育学部はNo11で紹介した「ユニブネット」に参加申請しました。加盟することで県内のユネスコスクールへの支援をおこなうこととなります。



信州ESD通信
No.13 2018.4.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp